



【証券コード:9651】

日本プロセス株式会社 決算説明会

2015年5月期第2四半期累計



平成27年1月9日

1. 2015年5月期 第2四半期連結決算について

2. 2015年5月期 見通しについて

1. 2015年5月期 第2四半期連結決算について

2. 2015年5月期 見通しについて

2015年5月期第2四半期 連結決算の概況

単位:百万円

	計画	計画 対比	実績	前年 対比	前年
売上高	2,400	333	2,733	330	2,402
		13.9%		13.8%	
営業利益 (営業利益率)	120 (5.0%)	127	247 (9.0%)	142	105 (4.4%)
		106.1%		135.2%	
経常利益 (経常利益率)	136 (5.7%)	127	263 (9.6%)	139	123 (5.1%)
		93.6%		113.0%	
四半期純利益 (四半期純利益率)	82 (3.4%)	77	159 (5.8%)	95	64 (2.7%)
		94.7%		148.8%	

売上高

前年比: +330百万円 (+13.8%)

一部で検収が当初計画より前倒し、
ITサービスが微減するも、その他が好調に推移

営業利益

前年比: +142百万円 (+135.2%)

新入社員の現場アサインが計画より早期化、
全社的に技術者の稼働率が向上

経常利益

前年比: +139百万円 (+113.0%)

営業利益増加による

四半期純利益

前年比: +95百万円 (+148.8%)

経常利益増加による

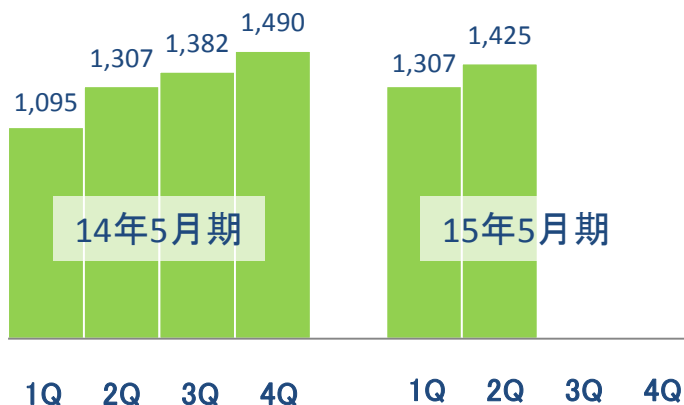
【トピックス】

- 新入社員の現場アサインが計画より早期化、
全社的に技術者の稼働率が向上
- 案件の引き合いが増加、リソースが不足傾向
- パートナーの活用、人材採用を強化
- 一分野複数顧客が進展
- 大連でのオフショア開発が多様化
- 業界団体のワーキンググループ活動を継続
- 連結子会社アイ・ピー・エスの吸収合併を決定
(2015年6月1日予定)

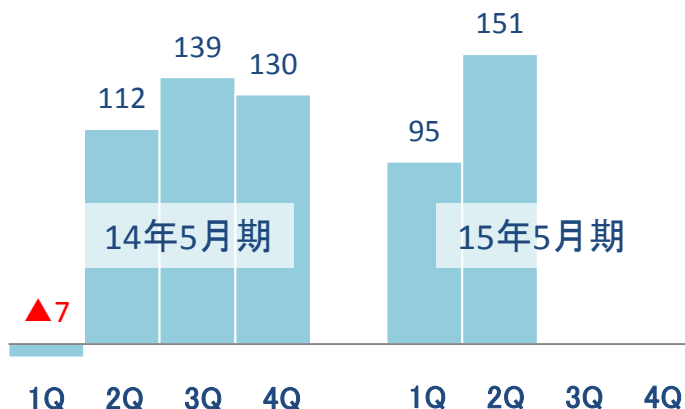
2015年5月期第2四半期 連結決算の概況(四半期推移)

単位:百万円

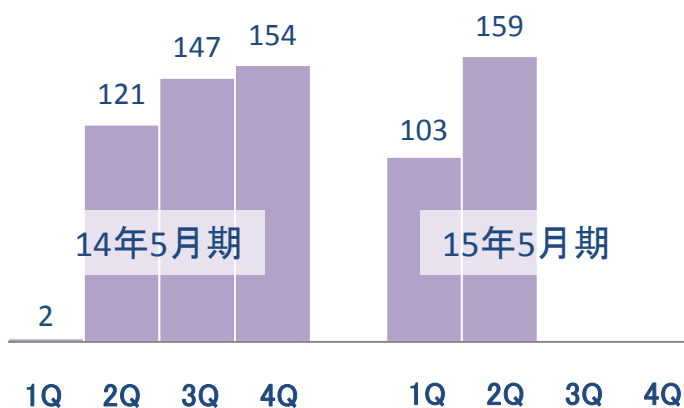
売上高



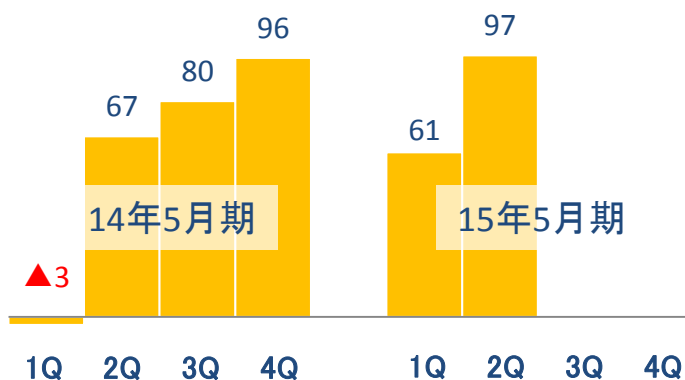
営業利益



経常利益



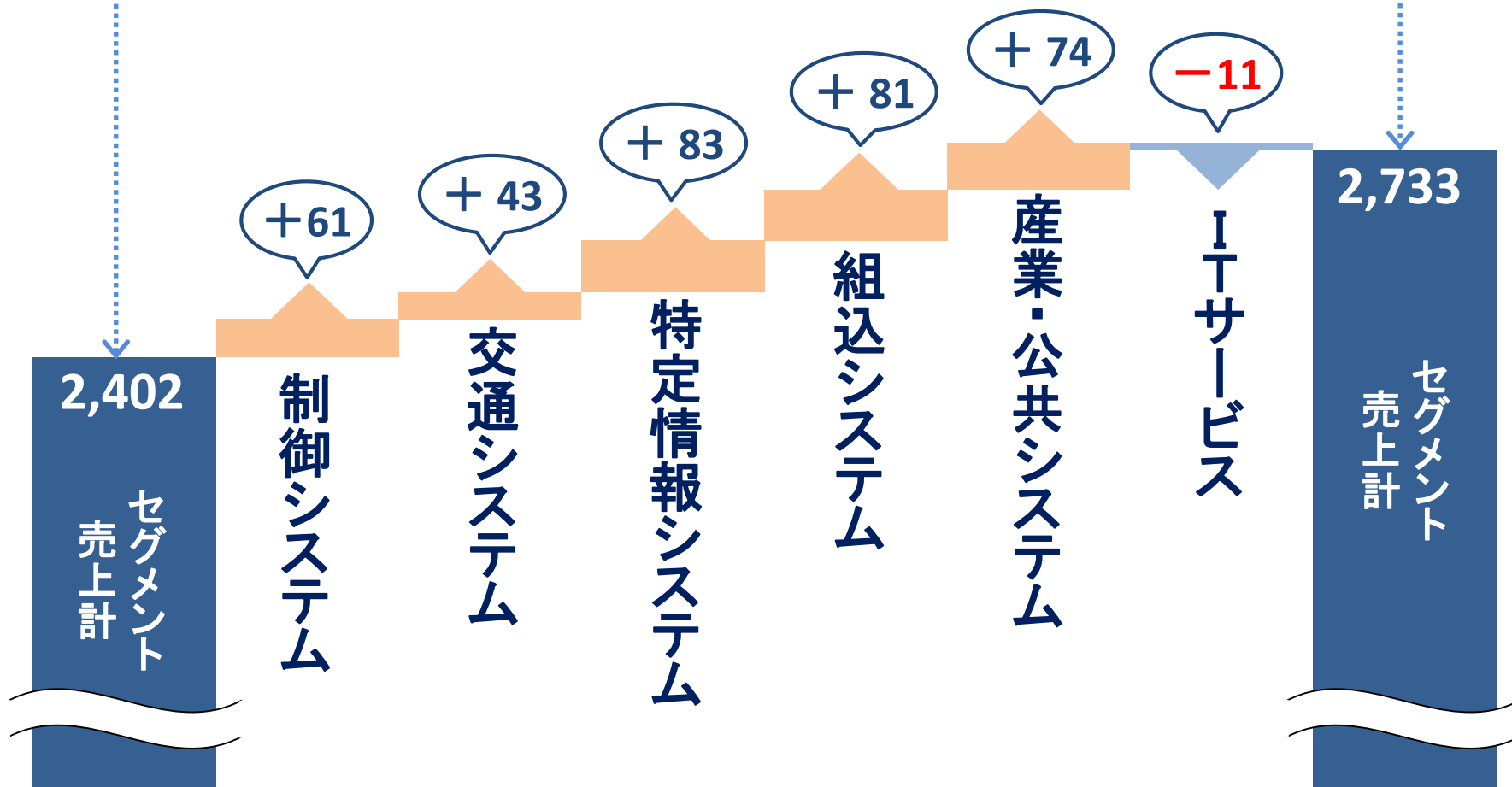
当期純利益



2015年5月期第2四半期 セグメント別売上増減

単位:百万円

330百万円の増加 (前年同期比: +13.8%)



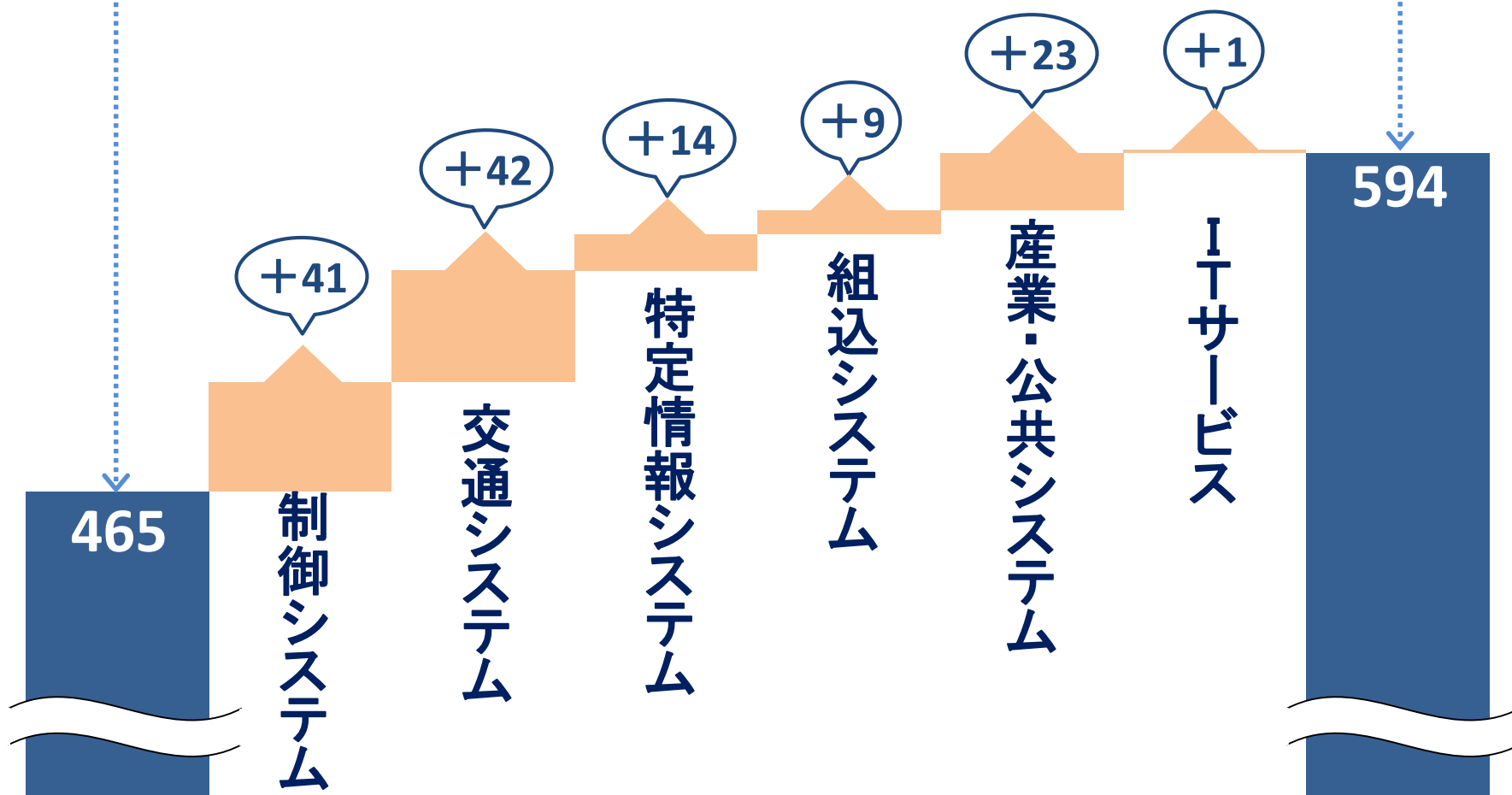
14年5月期
(第2四半期)

15年5月期
(第2四半期)

2015年5月期第2四半期 セグメント別利益増減

単位:百万円

128百万円の増加(前年同期比: +27.6%)



14年5月期
(第2四半期)

15年5月期
(第2四半期)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

制御システム

- 国内の発電所関連は更新期となり開発量が増加
 - ・海外案件は増加するも受注単価低下のため、大連の子会社を活用し原価を低減
- 次世代自動車向けの電動化案件が好調を維持
- 新入社員の現場アサインが計画より早期化

単位:百万円

セグメント		14年5月期 (利益率)	15年5月期 (利益率)	増 減 (増減率)
制 御 シ ス テ ム	売上	409	470	+61 (+14.9%)
	利益	75 (18.5%)	116 (24.7%)	+40 (+53.7%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

交通システム

- 新幹線はシステム開発サイクルが一巡
 - ・ 国内新幹線の運行管理システムは横ばい
 - ・ 海外鉄道案件のシステム開発時期の遅れ
- 在来線はリプレース案件が増加
- 前期に実施した総点検等により瑕疵対応が減少

単位:百万円

セグメント		14年5月期 (利益率)	15年5月期 (利益率)	増 減 (増減率)
交通システム	売上	168	210	+42 (+25.5%)
	利益	▲26 (▲15.7%)	15 (7.2%)	+41 (-)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

特定情報システム

- 前期に受注した地理情報分野は製造フェーズが継続、資源衛星画像案件は開発が収束し体制を若干縮小するも堅調
- 危機管理分野は、大型案件が輻輳し体制が拡大

単位:百万円

セグメント		14年5月期 (利益率)	15年5月期 (利益率)	増 減 (増減率)
特定情報システム	売上	248	331	+82 (+33.4%)
	利益	58 (23.6%)	72 (21.8%)	+13 (+23.3%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

組込システム

- スマートフォンのプラットフォーム開発は減少
- 車載情報システムの開発は、従来からの案件が堅調、海外向け案件は体制を拡大
- SSD(ストレージデバイス)開発は堅調
- 前期に受注した半導体/電子部品分野は横ばい

単位:百万円

セグメント		14年5月期 (利益率)	15年5月期 (利益率)	増 減 (増減率)
組 込 シ ス テ ム	売上	538	619	+80 (+15.0%)
	利益	135 (25.2%)	144 (23.3%)	+8 (+6.5%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

産業・公共システム

- ICカード開発では個人番号カード開発を受注
- 次世代の駅務機器システム開発を継続
- 請負大型プロジェクトであるスポーツ関連システム開発は1.5次開発を継続
- 鉄道子会社のエンジニアリングサービスは堅調

単位:百万円

セグメント		14年5月期 (利益率)	15年5月期 (利益率)	増 減 (増減率)
産業・公共システム	売上	583	657	+74 (+12.7%)
	利益	138 (23.7%)	161 (24.6%)	+23 (+16.8%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

2015年5月期第2四半期 セグメント別の状況⑥

ITサービス

- 検証サービスは減少したまま横ばい
- 構築サービスは案件はあるものの横ばい
- 保守/運用サービスは会計システムが好調を維持
- 稼働率が改善され利益増

単位:百万円

セグメント		14年5月期 (利益率)	15年5月期 (利益率)	増 減 (増減率)
I T サ ー ビ ス	売上	454	443	▲11 (▲2.5%)
	利益	83 (18.4%)	84 (19.0%)	+1 (+0.7%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

単位: 百万円

資産の部

資産: 459百万円の減少



— 主な変動要因 —

現金及び預金	▲796
売上債権	+138
有価証券	▲601
仕掛品	+68
投資有価証券	+812
長期定期預金	▲100

14年/4Q 15年/2Q

負債/純資産の部

負債: 17百万円の増加
純資産: 476百万円の減少



— 主な変動要因 —

未払法人税等	+19
未払消費税	+77
賞与引当金	▲86
繰越利益剰余金	+77
自己株式	▲579

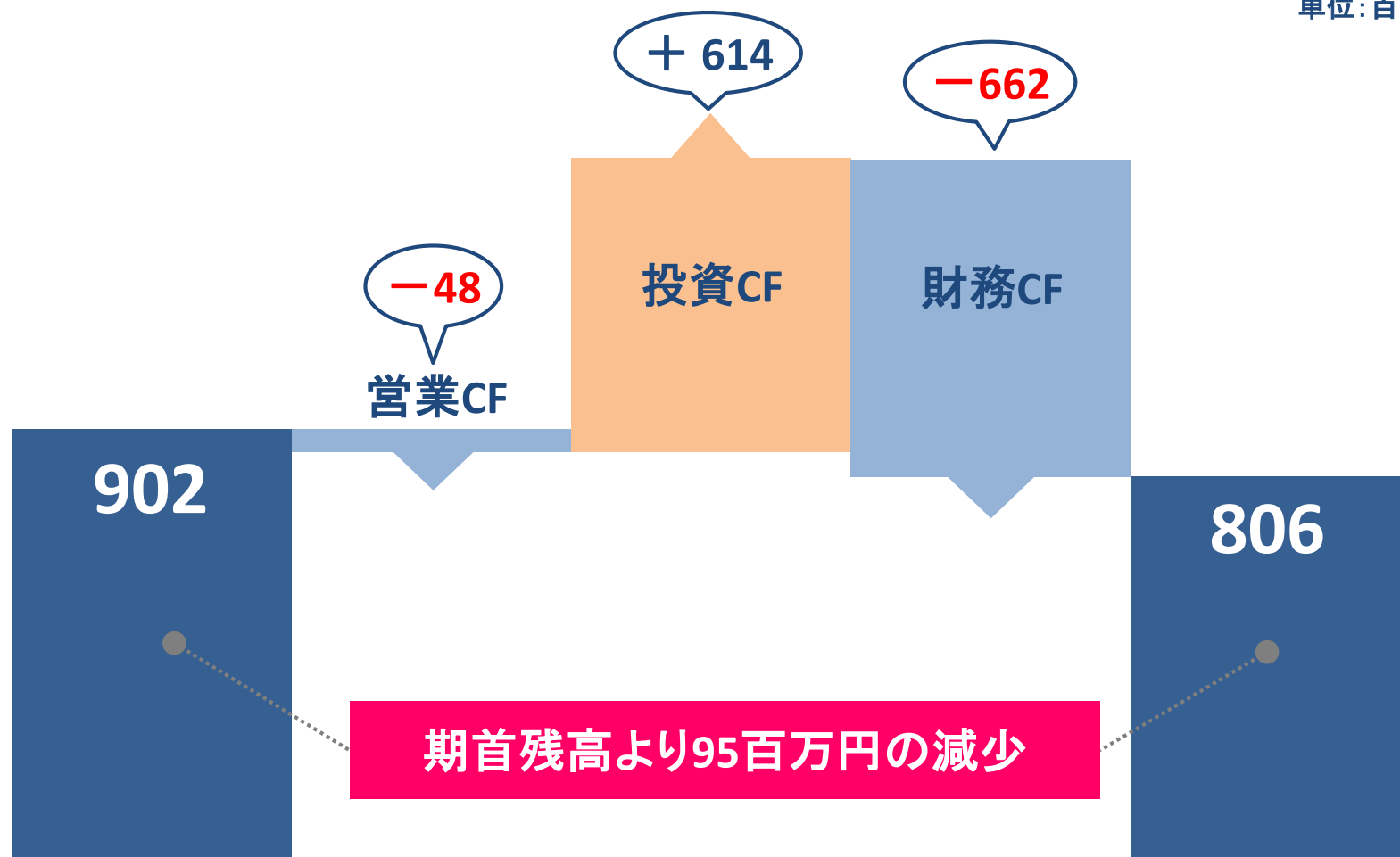
14年/4Q 15年/2Q

財務指標(その他)

	14年5月期	15年5月期 第2四半期	(参考) 14年5月期 第2四半期
純資産額	8,214百万円	7,737百万円	8,121百万円
1株当たり 純資産	1,481.36円	1,571.71円	1,464.62円
1株当たり当期 (四半期)純利益	43.50円	30.88円	11.58円
自己資本比率	89.7%	88.91%	91.6%
自己株式	200,134株	822,634株	200,092株
従業員数	559人	553人	543人

2015年5月期第2四半期 連結キャッシュ・フローの状況

単位:百万円

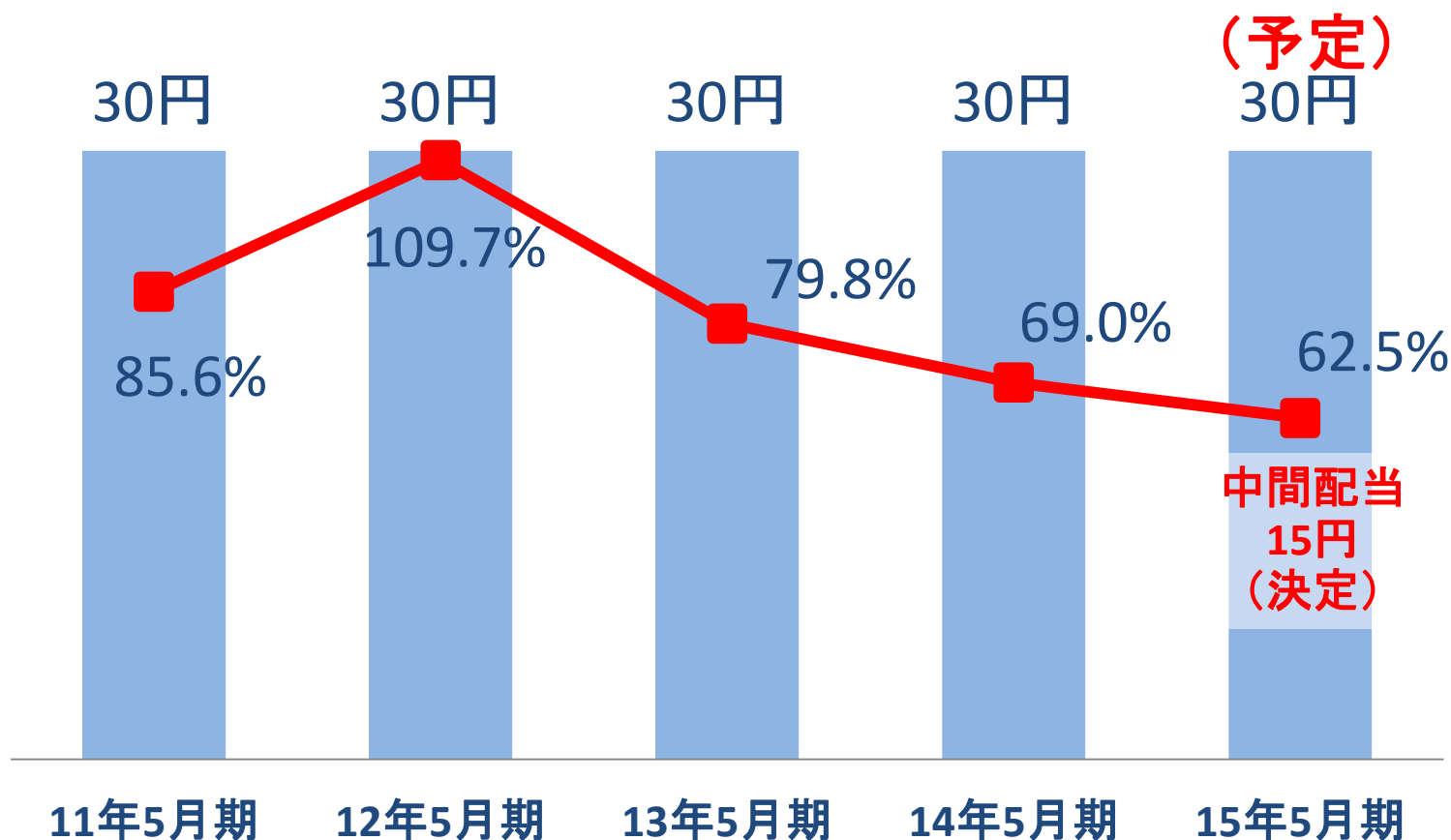


現金及び現金同等物の
期首残高

現金及び現金同等物の
期末残高

株主配当の推移

株主の皆さまへの利益還元を経営の重要政策として位置付け、
安定的な配当の継続と配当性向50%以上を目標として実施してまいります。



1. 2015年5月期 第2四半期連結決算について

2. 2015年5月期 見通しについて

重点取組み課題

(1) 新たな注力分野の発掘

- ① 技術の先行取得(機能安全、形式手法等)
- ② 業界活動の継続
- ③ 全社横断的で機動的な営業体制の推進

(2) 顧客とともにグローバル化を推進

- ① 標準化(パッケージ化、共通化、国際標準化)
- ② 低コスト化
- ③ 上記の視点から顧客に積極提案

(3) T-SES(トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービス)の推進を継続 フェーズ、機能、業務、コントロール範囲の拡大に加え、 それを支える開発スタイルを確立し、付加価値を向上

重点取組み課題の取組み状況

(1) 新たな注力分野の発掘

- ・ 車載情報システムの開発体制が拡大
- ・ 半導体/部品メーカーとの取引拡大と新規顧客開拓の継続
- ・ 準天頂衛星への取組みを開始
- ・ 鉄道子会社との取組みを再整理し、戦略化中
- ・ 先行技術取得プロジェクトの立ち上げ
- ・ オブジェクト指向、機能安全、形式手法教育を継続
- ・ 業界団体のワーキンググループに積極参加

重点取組み課題の取組み状況

(2) 顧客とともにグローバル化を推進

- ・発電所制御関連、交通関連、スポーツ関連など、オフショア開発の範囲が多様化、開発量も増加

(3) T-SES (トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービス) の推進を継続

- ・スポーツ関連システム開発で大規模請負の受注継続
- ・在来線システム開発では、前期に獲得した追跡制御機能を複数サイトで受注

制御システム

- 既設の発電所制御システムの更新期間が継続し、作業量の増加が継続
- グローバル化に向け、機能標準化、低コスト化、オフショア開発の提案を継続
- 次世代自動車の電動化案件は好調を維持
- モデルベース開発や機能安全に注力

交通システム

- 海外新幹線案件の引合いあり
- 在来線のリプレース案件の輻輳が継続
- 前期に取組んだ総点検で作業が正常化したことにより、収益を維持

特定情報システム

- 地理情報分野は、試験フェーズに入り体制縮小
- 危機管理分野は、大規模案件の輻輳が継続、体制を維持
- 技術検討段階から参画することで、顧客での価値向上に注力

組込システム

- 車載情報システムは、顧客からの体制拡大要求に応え、段階的に体制を拡大
- ストレージデバイスは引続き堅調
- 既存の半導体/部品メーカーとの取組拡大を推進、近距離無線技術を武器に部品メーカー開拓継続

産業・公共システム

- 駅務機器関連は次世代機開発の新規案件見込む
- スポーツ関連システムの1.5次開発は体制を維持、3Q以降作業が収束し体制は徐々に縮小
- 鉄道子会社のエンジニアリングサービスは一部減少も見込まれるが、他案件にシフトし体制維持

ITサービス

- ITサービス全体で横ばい
- 中途採用、協力会社などでリソース不足に対応
- システム構築の技術者育成をさらに強化し、サービスレベル向上を図るとともに、構築サービスへの集中を加速

2015年5月期 連結数値計画

単位:百万円

	14年5月期 実績	15年5月期 見通し	増減額 (増減率)
売上高	5,275	5,350	74 (1.4%)
営業利益 (営業利益率)	375 (7.1%)	385 (7.2%)	9 (2.6%)
経常利益 (経常利益率)	425 (8.1%)	430 (8.0%)	4 (1.0%)
当期純利益 (当期純利益率)	241 (4.6%)	266 (5.0%)	24 (10.3%)

アドソル日進株式会社と業務資本提携契約を締結

◆目的

社会インフラ分野における事業の拡大に向けた、
営業提案力の強化、開発体制の充実・強化、
ICT技術者を中心とした人材育成、など

◆アドソル日進株式会社の概要

- ・本社所在地 東京都港区
- ・代表者 上田富三
- ・資本金 499百万円
- ・売上高 8,436 百万円(2014年3月期)
- ・経常利益 300百万円(2014年3月期)
- ・従業員数 482名

『**T-SES**』で企業価値を向上し、
社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献します。

※T-SES(トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービス)

免責事項

本資料は作成時点での予測や仮説に基づく記述が含まれています。
これら将来の見通しに関する記述についてはその実現を保証するものではなく、
既知、未知のリスクや各種要因により実際の結果、業績と異なることがあります。

お問合せ

経営企画部 部長 米島英紀

keikibu@jpd.co.jp